

研究課題 (テーマ)		高度実践英語のフォローアップ教育	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	機械システム工学科	教授	森 孝男
研究結果の概要			
<p>(内容)</p> <p>大学院必修科目である高度実践英語のフォローアップを目的として、昨年度までの4カ年にわたって実施してきた英語教育プログラム(大学院GPでの取り組み)について、これまでの成果を踏まえて講習会の内容の追加も含めた改善等を行い、より高い効果が期待できる形の英語講習会として実施した。</p> <p>具体的な内容としては、(a)M1コースおよび(b)M2と博士後期課程学生コースそれぞれについて、事前の準備を手厚く行うことで、参加学生全員の参加意欲向上と、(a)と(b)との継続性への理解を促した。また、(b)については期間を2日間に倍増し、講師による直接指導と質疑応答にかかる時間を増やした。さらに、作成・実践した講習内容の有効性を明らかにするため、学生のモチベーションや語学力の向上などの点について、学生、講師、および指導教員からのアンケートや意見などから評価した。</p> <p>(成果)</p> <p>学生の予習および積極的な参加を促すための事前および当日の準備が効果を上げ、(a)および(b)において、大部分の学生のより積極的な参加姿勢が見受けられた。また、(b)を2日間に延長することにより、Nativeスピーカー+日本人によるペアティーチングの形での講習会においても、従来よりも学生が大変意欲的に参加・発言するようになった。アンケートでも、「質問する機会がたくさんあり、コミュニケーションをたくさんとることが出来た」といった肯定的な意見が大多数であり、今後の継続の有効性が指摘できた。</p>			
今後の展開			
<p>短期集中・アウトプット型のグループ学習の機会は、大学院においては極めて少ないことから、本講習会を継続する意義は高いと考えられる。今後は、DVD教材を活用した事前学習なども取り入れ、インタラクティブな情報交換のハードルをさらに下げる方策を実施したい。また、前期の高度実践英語による学生の中での下地があつてこそ、講師派遣型の短期集中講習会が実施できている点を重視し、授業担当教員との連携を深め、より効果的かつ広範囲な形での実施も視野に、今後も改善を継続していきたい。</p>			